



生命の尊厳と健康

学生支援部長 坂口 武洋



TAKEHIRO SAKAGUCHI

ヒト細胞には22対の常染色体と1対の性染色体、合計46本の染色体があり、父親と母親から23本ずつを受け継いで2対で構成されている。この染色体を構成するのはDNAであるが、体細胞当たりで約30億塩基対になる。この染色体DNAでは2万3千種類の遺伝子が解読されている。今日の生命科学は、クローン、iPS細胞など生命の発生に関わる領域で目覚ましく進歩している。

川村学園の創立者である川村文子先生は自然科学分野にも力を注がれていた。先生の言葉が銘記されている『紫雲』の第3章第1節教育方針16に「健康について」が掲載されている。その中で「ヒトの生命は父母、先祖の生命そのものの延長であると共に、永遠の子孫の生命のこもったもの、この貴き生命の自覚があれば健康に注意できる」と述べている。当時の学院心得第2条に「心身の充実と健康とをはかること」が記されている。

また、生命の尊重の所で、健康の重んずべきことは何人も知っているが、健康増進の実行が怠られ勝ちなのは、「生命」の尊さに対する自覚がないためとも記されている。さらに、生命の尊重、天性と健康、精神と健康等について述べ

られている。

今日のように生命科学が発達しているか否かに関わらず、人々には自らの健康を「自立」「自己責任」「自らの世話（セルフ・ケア）」によって努力することが求められている。すなわち、生命尊重・健康優先の意志決定をし、どのように行動変容に結びつけていくかである。健康は保健学や医学だけの問題ではなく、社会的・文化的に成熟してこそ得られるものである。したがって、幅の広い知識・洞察力と実践力によって生命・健康は衛られる。

目先の利益・快楽のみの追求は、一個人の健康・生命のみならず、生物全体・地球の破滅を招くことにつながる。自分の健康・生命・地球は有限であるとの認識や、自然の摂理や畏敬の念から生じる万物への愛情は健康を育むものであろう。

21世紀の健康観は、各自の身体的状況と社会的文化的価値観との関連の中で、相対的に決定されるべきものと考えられる。健康は「衛生」の字の如く、「生きることを衛る」ものである。健康は生を支える条件であり、生への認識が明らかではないと、健康についての認識も得難いものとなろう。

■ 東日本大震災 ■

ボランティア

ボランティアツアー体験

社会教育学科 2年 吉田 桃子

3月11日の東日本大震災の様子をテレビで見て、自然の猛威に驚かされるとともに被災者の方々の苦しみや悲しみはいかばかりかと思わずにはいらませんでした。時間がある今、何かお役に立てないかと思っていたところ、茨城県内のツーリスト社が、宮城県東松島町でのボランティアを募集していることを知ってすぐに申し込みました。排水溝や住居周辺の片付けや土砂の除去作業は大変でしたが、被害者の笑顔や温もりにかえてこちらが元気をもらいました。6月末のわずか2日間でしたが、これからも時間がとれる限り参加し続けたいと思っています。



【宮城県南三陸町志津川の被災状況】

社会教育学科 斎藤哲瑯教授 8月撮影



【写真洗浄の様子】

こころの繋がりが力になる ～震災ボランティア～

心理学科 3年 印輪 ひなた

東日本大震災から3ヶ月後、福島県でのボランティアに参加しました。一日目は地元の朝市をお手伝いしました。明るい雰囲気の中で「笑顔」には人の心を温かくする力がある事を実感しました。二日目は津波被害にあった写真の洗浄をしました。現場に流れる空気や溢れる思い出の数は想像を超えるもので、自分の無力さを痛感しました。それでも地元の方々には「ありがとう」と何度も言って下さいました。

私は今回、ボランティアはただの労働力では無く、人と人の心のふれあいであることに気付くことができました。「こころ」の持つ力の大きさ・強さを知りました。復興は始まったばかりです。微力ではありますが自分にできる事を考えていきたいです。

B O O K S



川村学園女子大学大学院人文科学研究科
教育学専攻初等教育学領域の
教員養成研究会
中心メンバー 18名の共著

『小学校教員養成における
「コミュニケーション能力」を高める
教科教育法に関する研究』

●2011年9月25日発行
●川村学園女子大学大学院人文科学研究科

藤田 節子 著
(社会教育学科 教授)
『図書館活用術
—情報リテラシーを身につけるために—
(新訂第3版)』

●2010年10月発行
●日外アソシエーツ(株)

西川 誠 著(史学科 教授)
『明治天皇の大日本帝国』
(天皇の歴史07巻)

●2011年7月28日発行
●講談社

野村 典彦 著(日本文化学科 非常勤講師)
『鉄道と旅する身体近代
—民謡・伝説からディスカバー・ジャパンへ—』

●2011年10月発行
●青弓社

卒業生の著書

池川 玲子 著
(大学院比較文化専攻後期博士課程
2006年修了・実践女子大学非常勤講師・
平成23年度青山を賞受賞)
『『帝国』の映画監督
坂根田鶴子—『開拓の
花嫁』・一九四三年・満映』

●2011年3月10日発行
●吉川弘文館

阿部 百里子 編著
(史学科1993年卒・川村学園女子
大学非常勤講師)
『海の道と考古学』

●2010年11月25日発行
●高志書院

霜村 春菜 共著
(史学科1997年卒)
日本ベジタブル&
フルーツマイスター協会編
『からだが好き
おいしい野菜のチカラ』

●2009年9月1日発行
●中経出版

夜神 里奈 著
(ペンネーム・史学科2003年卒)
『夜ごと悪魔とkissをする』

●2010年12月29日発行
●小学館



第23回 鶴雅祭を終えて

学園祭実行委員長 史学科3年 大塚 絵梨

鶴雅祭



今年の鶴雅祭は、10月22・23日に開催されました。テーマは、『Girls, be ambitious』としました。

今年は、準備日・開催日の天気が、雨の予報となったため、悪天候を想定して準備しました。開催当日の朝まで降り続いていた雨は、私達の思いが届いたのか開催前には止んでくれました。キャンパス内には、スタンプラリー、ふわふわなどを楽しむ子どもたちの姿が見られ、実行委員としてとてもうれしく思いました。日曜日は、お笑いライブショー(はんにゃ・エハラマサヒロ・トレンディエンジェル)を開催しました。来場者は、初日の天候が響いたものの両日をあわせて2,438名余を迎え、盛況のうちに終わることが出来ました。

来年は、今年の経験を生かし、さらに充実した鶴雅祭になるように期待しています。

最後になりましたが、実行委員を代表して、鶴雅祭を成功へと導いてくださった皆様に厚くお礼申し上げます。

文学部

●史学科

史学科は「SGK・ティー・パーティー」という喫茶店を開き、今年は、ギャルソン風の男裝をして接客しました。喫茶店の壁には、史学科の勉強を生かして紅茶やコーヒーの歴史の展示も少々しました。学園祭では両日も忙しく時間が過ぎていきましたが、3年生を中心に総勢17名が心一つにして協力できたことが大変よかったと思います。



●国際英語学科

22日(土)に「英語スピーチコンテスト」を開催しました。1年生のレシテーション(暗誦)の部では山田美佳さん、2年生以上のスピーチの部では3年の篠麻未さんが優勝しました。あわせて高校生対象の「児童文学英訳コンテスト」の表彰式も行われました。

●心理学科

今年は「箱庭・コラージュ体験」「先輩に聞こうコーナー」に加え、学科初の「模擬店(YAKITORI's)」を出店しました。模擬店では、初日、二日目共に早々に完売しました。



鶴雅祭のクラブ活動

●Hoku Party

私たちは、毎年鶴雅祭でダンスを披露させていただいています。夏休みから準備を始め、一つ一つのダンスを完成させました。みんながまとまるのに苦労しましたが、本番は無事成功したので、良い鶴雅祭になりました。



レポート

教育学部



● 幼児教育学科

幼児教育学科では公演として2年生がオペレッタ「泣いた赤鬼」と「ディズニーメドレー」の合唱とダンスを行いました。また、乳児保育室では「おかしのかに」をテーマに迷路やゲームを作りました。附属保育園や地域の子ども達がたくさん参加してくれて楽しく過ごしました。

● 日本文化学科

毎年恒例の、日舞「藤娘」の発表と、1年生全員による和風喫茶「秋桜^{あきざくら}」を浴衣姿で行いました。みな上手に着こなして、乙な情緒^{かもち}を醸し出していました。お陰さまでどちらも成功裡に終わられましたし、楽しかったです。



● 社会教育学科

社会教育学科では「東日本応援部隊」として立ち上げ、福島県相馬市で行ったボランティア活動報告会、喫茶店を開き、10万円を超える募金を集めることが出来ました。募金は福島県相馬市に寄付します。皆様のご協力ありがとうございました。



● 児童教育学科

1年生の劇「大きなかぶ」では人気アニメの主人公や嵐、AKB48が登場、ラストは客席と一体になってマルモダンスで盛り上がりました。駄菓子屋さんや手作りの昔遊びも子供たちに大盛況でした。4年生有志による「楽しい実験・工作をしよう♪」では、くるくる変化するカライドサイクルや再生チョークで楽しい工作あそびをしました。

生活創造学部（旧人間文化学部）

● 生活文化学科

学科の模擬店「鶏の照り焼き丼、シフォンケーキの販売」は、丼、ケーキとも多くは前売り券での販売で昼過ぎには売り切れになっていました。パネル展のタイトルは「人口70億人の世界と女性の現状」で、2011年10月末に世界の人口は70億人に達しました。世界では一日に千人の妊産婦が出産とそれに伴う疾病で死亡しています。ミレニアム開発目標達成年度まであと4年です。世界の女性の現状をパネルで示しました。科目紹介では基礎ゼミのレポート、非常用クッキング、フェルトの作品が展示され、興味を持って見て頂きました。



鶏の照り焼き丼とシフォンケーキ

● 食育研究サークル

こんにちは。食育研究サークルです。私たちは4年8人、1年2人、計10人で、部員たちはみんな明るく、仲良く活動しています。主な活動内容は、いろいろな種類のハーブや花を育て、ハーブガーデンを作っています。場所は5号館と7号館の間にあります。自分たちで選び、育てたハーブなどを使用し、石鹸やキャンドル等を作ろうと計画しています。活動日は不定期ですが、お昼休みや空き時間を利用し活動しています。

鶴雅祭では、フレッシュハーブとドライハーブを使用したハーブクッキーとハーブティを作り、試食していただきました。クッキーにはローズマリーとミントの2種類、ハーブティには、ラズベリー、カモミール、レモングラス、ラベンダーの4種類を使用しました。試食のほかにサークル活動の紹介とハーブの種類の紹介を展示しました。たくさんの方が見に来てくださり、とても嬉しかったです。



● 観光文化学科

観光文化学科カフェでは、オリジナルエコバッグ作りの体験とゼミの研究展示を行いました。また屋外で、マンゴージュースとフランクフルトを販売し、たくさんのお客さんに来ていただきました。



幼児教育学科 3年 小須田 恵梨

私は学生生活において、数々のイベント行事やボランティアに積極的に参加させていただいています。最近では震災の影響で遅れていた学科の1年生対象のオリエンテーションキャンプが9月にあり、学科の代表学生として参加させていただきました。3年生はリーダーシップをとって1年生を取りまとめていくことや、スムーズに予定を進めていけるようサポートするという役割がありました。そのため私は、全体の様子を見ながら1年生に声をかけたり、点呼を取る時などは大きい声で全員に声が届くように意識しながら行動しました。保育現場に出た時子ども達をまとめていく上でこのような経験はとても勉強になると思いました。このようにボランティアに参加することにより得ることのできる経験や学びを大切に、これからも積極的にボランティアに参加していきたいと思いました。



史学科 4年 越渡 明実

私は今年度、我孫子市の平和事業推進委員になりました。委員は一般の方と一緒に活動するため、高校生や70代の方といった様々な人と触れ合うことができます。平和事業の式典を開催するなど、大学内では味わえない貴重な体験をいろいろとしています。

我孫子スピーチコンテストに参加しました

国際英語学科 2年 原 成美

9月25日に我孫子市主催のスピーチコンテストに参加しました。今回は、高校2年生のとき初めての海外研修で英語が通じずカルチャーショックを受けた話をし、母国語を英語としない人々が話す英語も聞き取る耳が必要だと論じました。そして、川村学園女子大学学長賞をいただきました。

来年の4月から1年間イギリスへ留学します。本場のイギリス英語を学んで帰ってきた際には、全国規模の大会にも挑戦したいと思っています。



心理学科 1年 山口 愛奈

初めての学園祭で、同じ学科の仲間達との軽音ライブと模擬店で焼鳥を出店しました。軽音楽部に入ったことによって先輩方や他学科の友達との関わりが増え、また模擬店でも新しい交友の輪が広がりました。学生は勉強も大事ですが、勉強以外にも学べるのが沢山あります。これからも大学生活の中で積極的に多くのことに参加して自分を磨いていけたらと思います。



学 科 ニ ュ ー ス

●国際英語学科



4月に3年生8名がイギリスのチチェスター・カレッジに留学しました。学生たちは世界各国からの留学生たちと一緒に授業を受け、小旅行に出かけたり、パーティに参加したり、と

ても有意義な時間を過ごすことができました。短期留学の6名は9月に帰国し、スピーチコンテストでその成果を発表しました。TOEICの得点も上がり、就活にも自信をつけることができました。

●史学科

同窓会開催

史学科では、平成23年11月26日に史学科同窓会「鶴史会」の大会を開催しました。当日は、尾藤正英先生（元川村学園女子大学文学部教授・東京大学名誉教授）には「無私と無我—日本人の仏教を考える—」というタイトルで、また金澤周作先生（元川村学園女子大学文学部准教授・現京都大学文学部准教授）には「博愛の大英帝国？—現在の日本で歴史を学ぶ意義—」というタイトルで講演をしていただきました。それぞれ大変意義深い講演で、集まった多数の卒業生や在学学生は学問の奥深さに触れ強い感銘を受けたようです。その後懇親会で旧交を暖め、またの機会での再会を約束しつつ散会しました。



●日本文化学科

歌舞伎鑑賞教室

6月25日に国立劇場で『義経千本桜 河連法眼館（かわつらほうげんやかた）の場』を鑑賞しました。義経伝説を題材にしたドラマチックな内容で、狐も登場します。演ずるのは若手役者中心で、最年少は現役の高校生でした。役者さん自身の解説も興味深く、とりわけ女形に変身する様は見事でした。一つ一つの段階を経て、女性以上に女性らしく変わっていくのです。学生たちは終演後も興奮冷めやらぬ様子で、感想を話し合っていました。



●観光文化学科

スカイバスツアーとホテル日航東京見学会

7月に1年生対象のホテル見学会を行いました。上野からスカイバスという2階席がオープンになっているバスで、スカイツリーや浅草、日比谷などをめぐった後、お台場の「ホテル日航東京」へ向かいました。ホテルの方からホテルの仕事についてお話を聞かせていただき、客室やチャペルなどの施設を見学しました。



学生たち

FROM CAMPUS

充実した4年間 児童教育学科 4年 諸角 舞

児童教育学科の1期生として、様々なことに挑戦的に取り組んできました。部活には所属しなかったものの、教員採用選考の勉強や資格取得の勉強、ボランティアなどに力を入れました。無事に教員採用選考に合格し、春からは小学校の教師として就職します。今までは教員採用選考に向けた勉強でしたが、これからは指導者としての勉強となり、身を以って生涯勉強という言葉を感じています。卒論に追われながらも、ベトナム検定の勉強や卒業アルバム実行委員、学園祭での学科4年生企画を行うなど忙しう充実した毎日です。興味のある発展途上国にもまた行きたいと計画中です。

あと少しの大学生活も思う存分楽しめ、達成感に満ち溢れた笑顔で卒業します！

JAZZ DANCEで得たこと 観光文化学科 4年 近藤 早紀

私は3歳からJAZZ DANCEを始め、踊り続けて19年になります。DANCEを学ぶために18歳の時から毎年単身渡米し、私の世界観、人生観は大きく変わりました。DANCE界の第一線で活躍する方々と一緒に踊れる環境や苦難を共にし全てを共有したいと想える仲間に出逢えた事、私にとってのDANCEは、私の全てに結びつく人生の財産です。



生活文化学科 2年 友田 千波

私は幼稚園から現在までクラシックバレエを続けてきました。バレエを始めた理由は単純に可愛い衣装を着たいというものでしたが、その衣装を着るためには日々の努力が必要です。足にまめが出来て痛くても練習をしたり、毎日ストレッチや筋トレを欠かしませんでした。舞台当日緊張しすぎて泣いたり、悔しい思いをして涙山泣いたりもしました。何度も辞めようかと思いましたが今では辞めなくてよかったと思います。これからも日々努力を続けたいです。

介護体験記 児童教育学科 3年 松下 さやか

今回の体験では、初めはとまどいもありましたが、日を重ねるごとにハンディキャップを持つ人に自然に接することができるようになりました。相手の声によく耳を傾け、積極的に交流を図ることで、相手も心をひらいてくれました。その時の喜びは大きいものでした。彼らの一人の人間として生きていく姿勢に向き合い、机上では学ぶことのできない貴重な経験を行うことができました。これからは、今まで持っていた心の壁を取り払ってハンディキャップを持つ人に接していくことができると思います。この体験をこれからの教育活動に活かしていきます。

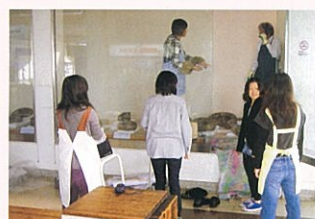
● 幼児教育学科

幼児教育学科では、今年度より1年次対象の授業「言語表現技術」が開講されました。言語表現を中心に、音楽・身体・造形表現を専門とする教員から技術を学び、保育の総合性を体験的に理解することが目的です。グループごとに、台本作りから工夫し、協働して劇を創りあげ、最後に互いの発表を楽しむひとときを過ごしました。授業を振り返り、これから子どもや保育者の視点から考え、理解を深めていくことが楽しみです。



● 社会教育学科

「博物館実習」の授業の一環として、展示活動(サハリン産のアンモナイト展)を藤代駅構内の市民ギャラリーで、11月2日～15日まで実施しました。学生の展示技術の向上と共に本学の学芸員養成への理解を深める良い機会となりました。



今回は、平成24年3月7日～14日まで取手駅ギャラリーロードにおいて「明治期の教科書展」の展示・普及活動を開催予定です。

クラブ活動報告

■ ESK——— 子どもたちの笑顔がうれしいです！

私たちESK (Educational Supporter in Kawamura) は、我孫子市を中心に、地域の小学校で学校ボランティアをしています。メンバーは、大学で教職課程を履修している人がほとんどです。みんな、子どもが大好きです。

まず、学習支援では、決められた学級に入って担任の先生のお手伝いをしたり、放課後、国語や算数が苦手な子どもと一緒にドリルを解いたりします。また、様々な学校行事のお手伝いもします。運動会では特別支援学級の子どものと一緒に走ったり、校内マラソンのコースに立ち、子どもたちの安全を見守ったりします。高校までの経験を生かして、部活動の吹奏楽を指導している人もいます。特に楽しいのは、子どもと一緒に給食を食べることです。おいしいですよ！

元気な子どもたちと活動するのは少し大変ですが、「また来てね！」という子どもたちの笑顔がうれしいです。

■ バレーボール部

私たちバレーボール部は、現在4年生6名、3年生5名、2年生2名の計13名で、毎週月曜と木曜日の週2日練習に励んでいます。練習内容は、バレーボールの基礎的な練習から全員参加型のミニゲームまで、楽しく上達できるようなメニューを取り入れています。バレーボールを通してコミュニケーション能力や体力の向上をしつつ、更に皆で一つの目標に向かって行き達成出来た時には充実感や沢山の楽しさや嬉しさを味わうことが出来ます。部員は初心者から経験者まで幅広く、先輩や後輩がとても仲の良い部活です。ぜひ学生生活の思い出としてバレーボール部に入部してみませんか？学年、経験の有無を問わず随時募集しています！



卒業生は今

●●● MAILBOX

伊藤 恵加

史学科 2009年卒



現在、私は新潟県の特別支援学校に勤務しています。担当している授業は作業の木工・農耕班などです。小物入れを作ったり、畑で野菜を育てたりするのを指導しています。初めての特別支援学校で、最初はとても戸惑いでしたが、生徒の素直なところや先生方に助けってもらっています。授業で大切にしていることは、「できる」という状況をつくることです。そのために、柔軟に考えていろいろな方向から工夫していくことが必要だと学びました。生徒の「できた!」と一緒に喜び、成長していきたいと考えています。

片山 知美

大学院心理学専攻修士課程2008年修了



私は現在、児童養護施設で常勤の心理職として子どもに携わっています。今年で4年目を迎え、ようやく振り返りができるところでしょうか。この4年間で特に大変だったのは、他職種との連携でした。与えられた仕事をするのではなく自ら作り上げていく仕事という所もあり、連携をするにあたり、一体今の自分に何ができるのか、心理職の専門性とは何なのか、アイデンティティを何度も問いつつ毎日でした。何度も挫けそうになり、弱音も沢山吐きましたが、一方で楽しさを感じられる場面もありました。特に子どもたちがみんなで歌を歌っている場面は胸が熱くなる瞬間です。今後私は幾度となく壁にぶち当たると思います。しか

し、無理せず背伸びせず、子ども達のために今自分ができることをしていきたいと思っています。

櫻井 雪華

幼児教育学科 2011年卒



4月から3歳児クラス(32名)の担任となりました。入園間もない子どもたちを一人ひとり見ていくことはとても大変であり、半年は常に焦りの中で過ごしていたように思います。しかし、補助担当の先生の適切な助言があり、少しずつ心のゆとりが出てきたように思います。10月には運動会を実施し、11月には作品展が開催されます。3歳児ということもあり作品には個人差が大きく指導には多くの配慮が必要となります。教材研究や、一人ひとりの子ども理解の大切さを感じており、日々頑張っています。

岩戸 仁美

生活文化学科 2010年卒



現在、私は川村学園女子大学附属保育園の施設栄養士として勤務しています。保育室に入って配膳をおこなったり、一緒に給食を食べたりと園児とのふれあいも多く、子ども達のみならず笑顔に毎日たくさんの元気をもらっています。また、保育士と共に園の行事にも参加しています。夕涼み会で踊った余興のダンスは大盛況でした。また、ハロウィンでは魔女になってお菓子を配りました。行事は給食時とはまた違った園児達の姿が見られるので楽しみです。

乳幼児期は食習慣の基礎を育む大事な時期で

す。一日一日を大切に今後も安全でおいしい給食づくりに励み、子ども達の成長を支えていきたいと思っています。

保坂 礼乃

観光文化学科 2007年卒



私は2007年3月に観光文化学科を卒業し、2008年1月にハワイ大学提携校のカピオラニ・コミュニティ・カレッジに入学し、ホスピタリティ学部ホテル&レストランオペレーション学科を専攻し、2009年12月に卒業を致しました。2010年2月から1年間、Japan Airlines Hawaii Inc.に入社し、グランドスタッフとしてホノルル空港で働いておりました。ホノルル空港では、チェックインカウンター、イミグレーション、ラウンジ、搭乗ゲート等、さまざまな場所で働かせていただき、毎日忙しく非常に責任能力を求められる仕事ではありましたが、逆にそれが、私にとって一番やりがいのある仕事でありました。今年の東日本大震災の後、日本に帰国し、偶然JAL SKYの採用情報を見つけ、ダメもとで応募したところ、内定を頂くことができました。2011年9月より入社し、現在は羽田空港国際線ターミナルでグランドスタッフとして働いております。羽田空港のJALではホノルル空港と同様にマルチスキルを求めている職場です。1年間の経験がホノルルであると言っても、ステーションも違えば環境も全く異なります。1から改めて再スタートという気持ちで、今は搭乗ゲートでトレーニングを受けながら、楽しく働いております。

「第10回世界舞踊祭」へ出演

心理学科卒 塚本 千鶴 (ダンス部OG)



日時：平成24年1月15日(日)

場所：赤坂区民ホール

私は、川村学園女子大学ダンス部OGとして、世界舞踊祭へ出演します。

この世界舞踊祭は、第10回までに100ヶ国の参加を目指しており、「舞踊の万国博覧会」と言われています。

学生時代に、「第1回世界舞踊祭」に出演させて頂き、第5回大会ではコンクール部門にて新人賞を受賞しました。今回の世界舞踊祭も、森田玲子教授のご指導のもと、イサドラ・ダンカン・ダンス「アヴェ・マリア」・「パッカナル」の2作品へ出演します。東日本大震災の復興への祈りをテーマに、心を込めて踊りたいと思っています。

卒業生の著書

柳 靖子 著

(大学院生涯学習専攻修士課程2006年修了)

『医療機関は「受付から変わります!」宣言レセプションリスト』

- 2011年5月13日発行
- 株式会社医療タイムス社



編集後記

- 卒業生が刊行した著作の欄が今回から設けられました。卒業生の活躍ぶりをこうした角度からもお伝えできるようになり、うれしく思います。(H.Y.)
- 今年は誰の胸も傷める年でした。編集作業をしながら、自分を含めた皆が一つの運命共同体として共に生きてきた事に思いを巡らせた。(Y.M.)
- 被災地への様々な支援が今後も続いてゆきますように。(M.S.)
- 表紙の写真は、鶴雅祭の当日、12号館4階の小窓から必死に撮りました。(N.O.)
- 学園祭を盛り上げた学生のみなさんも輝いていました。(K.T.)

発行日/平成23年12月13日第31号発行 制作/川村学園女子大学広報委員会